別紙色彩表

レベルスケールとアンダートーン

黒髪をブリーチして毛髪中のメラニン色素を分解流出させたときに現れる髪の色調が「アンダートーン」です。この色調段階を数値化したものが「アンダーレベル」、これを計測するための毛束見本を「レベルスケール」と言います。このレベルスケールは、日本ヘアカラー協会が2000年4月に制作・発表したものです。ヘアカラーのプロフェッショナルが使用する"共通言語"として使用してください。
日本人の場合、バージン毛の明度は3レベル～5レベルに集中しています。3レベル以下の髪は「カラスの濡れ羽色」や「ブルーブラック」と呼ばれる青味を感じる黒髪です。ただし食生活やライフスタイルの変化で、最近の日本人のバージン毛の明度は高くなる傾向があり、6レベルのバージン毛も珍しくはなくなりました。

アンダートーン
ブリーチにより毛髪中のメラニン色素が分解流出したときに現れる髪の色調

アンダーレベル
ブリーチして現れた髪の色調を段階別に数値化したもの

レベルスケール
アンダーレベルを計測するための毛束見本のツール

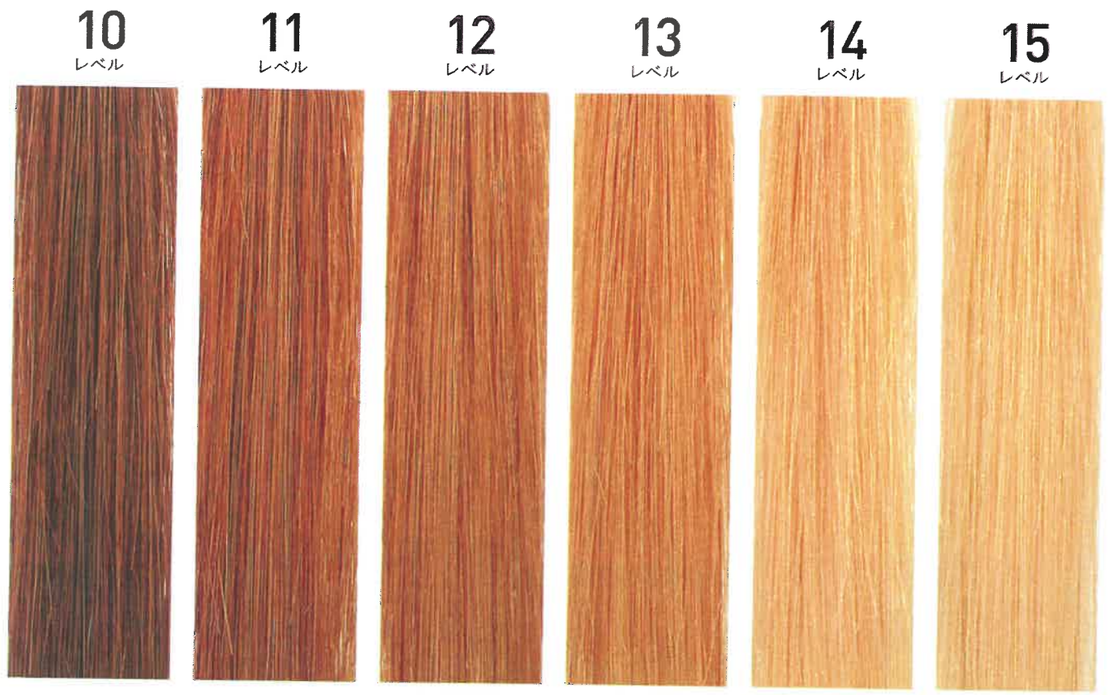
アンダーカラー
アンダートーンにヘアカラー剤の色素(ティント)が乗った状態

レッド味を感じるエリア

レッドオレンジ味を感じるエリア

低明度域
バージン毛か、それに近い状態。黒髪に赤味を感じる領域です。6レベル以上はカラリングした毛髪である場合がほとんどです。この領域はメラニン色素があまり分解流出していない状態なので、暖色系の発色は比較的容易ですが、寒色系はブラウン味のある沈んで濁った発色になりがちです。

中明度域
赤味の色素の分解流出がはじまり、彩度の高いイエローの色素が残っているため、オレンジ味を感じます。「赤味のあるオレンジ味」＝「ブラウン味」でもあり、いわゆる「ナチュラルカラー」と呼ばれる領域です。



オレンジ味を感じるエリア

イエローオレンジ味を感じるエリア

イエロー味を感じるエリア

高明度域
レベルが高くなるほど赤味も感じられなくなり、イエロー味がでてきます。13レベルを境にして、オレンジ味からイエロー味がベースとなってきます。暖色系の色味は発色しにくくなり、色素補正が必要となります。逆に、寒色系の色味は発色しやすくなります。